

岩崎式日本語と水海道方言の類似性

宮島達夫説 (有無両方)	佐々木冠説 (有無両方)	水海道方言		現代日本語との対応	
		有生物	無生物		
はだか格	主格	φ	φ	が、は	
目的格	対格	ごど	φ	を	
ゆくさき格	与格	げ	さ、へ	へ、に	
場所格(連用)	位格	に	に	へ、に	
能力格	経験者格	がに	に	が、は(主格に一致)	
道具格	具格	で	で	で	
もちぬし格	属格	が	の	の(「が」は「我が道」など限定的)	
場所格(連体)	場所格(連体)	な	な	の	
岩崎式日本語の解釈 (左が行為、右が状態)		水海道方言		岩崎式日本語の真格との対応	
		行為	状態	行為	状態
空識間格	空識間格	φ	φ	φ	φ
対格	絶対格	ごど	φ	を	φ
与格・向格・希格	与格・向格・及希間格	げ	さ、へ	き	きゆうき
向格・及格	向格・及格	に	に	きゆう	きゆう
能格	に	がに	に	のう	に
具及間格	具及間格	で	で	ぐきゆう	ぐきゆう
属格・具格	属格・識具間格	が	の	ぐ	しきぐ
に	処格・向格・識格	な	な	に	しき
Copyright (C) 2005-2012 岩崎純一 All Rights Reserved. http://iwasakijunichi.net/					